

人間社会学部 福祉心理学科 専門教育分野 TLO : Target and Learning Outcomes

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナンバ リング	科目 種別	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				講義 演習 実習 PBL など			授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	社会福祉学と心理学の双方の学びを通して、共生社会のための様々な現場、心理学を活用できる様々な現場で活躍するために幅広い教養を身に付けている。	私たちが生活する社会の在り方(知識、技術、制度)を把握・理解しているとともに、心理学を通じて心のしくみを理解し、その双方の知識と技術を生かして、他者や社会のための専門的な実践ができる。	共生社会の在り方や社会制度の知識を十分に理解して、福祉の在り方ができる。データの収集と分析において心理学の方法論を十分取り入れ、心や社会の仕組みを理解して問題解決を図ることができる。	福祉に関する共生社会の在り方や社会制度、支援技術を理解して、さらに心理学の知識や技術、実践的なスキルを生かし、社会を俯瞰的に見ることで、他者と協働してコミュニケーションをとることができる。	福祉制度の理念と知識、そして支援技術を十分に理解・把握している。そして心理学の知識と技術を身に付けて、社会に貢献する態度を有している。	社会人としての責任感・倫理観を遵守しつつ、福祉と心理学の知識や技術を新たに社会の支援のために活用するチャレンジができる。
基礎演習	M-SEM201	200	演習	2	○	心理学なら心理学、社会福祉学なら社会福祉全般に関して、その理解の範囲を深めるのを目的とする。	心理学あるいは社会福祉学の専門領域への入り口となるような授業なので、そのなかで専門的な関心を持つようになる。	社会福祉あるいは心理学の概念、歴史的展開、社会福祉あるいは心理学の理論、基本的な視点、心理学や社会福祉学の実践	◎	○	○	○	○	○	
専門演習	M-SEM301	300	演習	2	○	心理学や社会福祉学の専門領域の知識、理論、そして実践について深める。	心理学あるいは社会福祉学の専門家として必要な知識、理論、技術を身に付ける。	社会福祉あるいは心理学の概念、歴史的展開、社会福祉あるいは心理学の理論、基本的な視点、心理学や社会福祉学の実践	○	◎	◎	○	○	○	
卒業研究	M-SEM401	400		2	○	心理学や社会福祉学の専門領域の知識、理論、そして実践について深く、さらにそれを論述する。	心理学あるいは社会福祉学の領域で、自らの関心を研究領域の中で発見して、それについての探究を深める。	専門領域における自己発見、専門的な著述、方法論の修得、理論的な明確化、論述	○	○	○	◎	○	◎	
教育原理	T-EDU108	100	講義	4		「教育とは何か」に視点を置きながら、教育の理念、思想、歴史等について基礎的な知識を網羅的に学習する。	1. 教育の理念や目的を理解している。2. 教育の歴史や思想を理解している。3. 学校教育や社会教育等に関する基本的事項を理解できる。	教育の理念、教育の目的、教育の思想、教育の歴史、学校制度、生涯学習		○	○		○	◎	
教育相談	T-EDU109	100	講義	2		教育相談を心理臨床学の視点からとらえ、基本的な理論及びその実際を学修するために、多くの事例を学修する。	実践的かつ理論的な対応法は、基礎的・体系的な知識を欠くことが出来ないもので、心理臨床学に裏打ちされた教育相談の基本を体系的に理解できる。	教育相談、こころの構造、いじめ、アセスメント、カウンセリング、こころの病理、発達失調、登校拒否			○	○	◎	◎	
社会福祉概論	M-SWS101	100	講義	4	○	子どもや高齢者、障害のある人などすべての人たちの尊厳が守られ、安心して生活できる地域や社会の創造に向けて社会福祉の果たす機能や役割など、基本的な知識を学修する。	社会福祉の概念や定義を理解する。その上で、社会福祉の様々な分野や関連する施策、制度、サービスについて理解を深めることができる。	社会福祉の概念、歴史的展開、権利擁護、社会福祉の理念、社会政策の基本的な視点、福祉サービスの供給と利用の過程	○	○		○	◎		
子ども家庭福祉	M-SWS222	200	講義	4	○	子どもや家庭を取りまく地域や社会の現状を理解し、子どもが健やかに育ち、その尊厳と権利が守られる社会の実現に向けた子ども家庭福祉の全体を学修する。	子どもや家庭を取り巻く社会環境や、現代社会の子ども、子育て・子育てへの影響を理解できる。その上で、子ども、家庭への支援や施策、法制度などについて理解できる。	子どもの権利、子どもと家庭・地域、子ども・子育て支援の諸施策、児童虐待防止、社会的擁護、制度・サービス	◎	○					
医療社会論	M-SOC311	300	講義	4	○	医療の社会的役割や影響力、またその受容について、さまざまな角度からクリティカルに考えていく。	医療社会論において論じられている具体的事柄について考えるための方法とスキルを身につける。	医療社会論、健康と病の経緯、病人役割、感染症と社会的排除、慢生思想、専門家支配	◎	○					

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバー	ナンバリング	科目 種別	単 位	主 要 科 目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
学科間共通 専門科目	教育心理学	T-EDU110	100	講義	4	○	授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	社会福祉学と心理学の双方の学びを通して、共生社会のための様々な現場、心理学を活用できる様々な現場で活躍するために幅広い教養を身に付けている。	私たちが生活する社会の在り方(知識、技術、制度)を把握・理解しているとともに、心理学を通じて心のしくみを理解し、その双方の知識と技術を生かして、他者や社会のための専門的な実践ができる。	共生社会の在り方や社会制度の知識を十分に理解して、福祉の在り方を考えることができる。データの収集と分析において心理学の方法論を十分取り入れ、心や社会を理解して問題解決を図ることができる。	福祉に関する共生社会の在り方や社会制度、支援技術を理解して、さらに心理学の知識や実践的なスキルを生かし、社会を俯瞰的に見ることができ、他者と協働してコミュニケーションをとることができる。	福祉制度の理念と知識、そして支援技術を十分に理解・把握している。そして心理学の専門的な知識と技術を身に付けて、社会に貢献する態度を有している。	社会人としての責任感・倫理観を遵守しつつ、福祉と心理学の知識や技術を新たに社会の支援のために活用するチャレンジができる。
	発達心理学	T-PSY101	100	講義	4	○	乳幼児期から老年期のこころと身体の発達、各時期で遭遇する問題とそれらへの対処法を学ぶ。	人間発達の特異性と、乳幼児期から老年期の各段階ごとの発達課題と生じやすい問題、病理の特徴を理解できる。	生涯発達、家族関係、アタッチメント、認知発達、発達障害、介護、虐待	◎	○				
	対人関係論	M-PSY207	200	講義	4	○	対人場面における人間の心理行動を社会心理学の諸理論から学修する。	対人場面における人間の心理行動を社会心理学の見地から理解するとともに、社会心理学の諸理論に対する理解を深めることができる。	思考力、知識の理解、専門知識、基礎的学修、当該領域への関心、批判的思考力、自律性	◎			○		
	社会心理学	M-PSY202	200	講義	4	○	多様な社会場面における人間の心理行動を社会心理学の諸理論から学修する。	多様な社会場面における人間の心理行動を社会心理学の見地から理解するとともに、社会心理学の諸理論に対する理解を深めることができる。	思考力、知識の理解、専門知識、基礎的学修、当該領域への関心、批判的思考力、自律性	◎			○		
	スポーツの歴史と文化	M-SOC209	200	講義	4		スポーツを一つの文化として捉え、それが近現代社会のなかでどのような歴史を経て人びとに受け入れられてきたかを理解し、そこから自分の言葉で今後のスポーツのあり方を考えていくことができるようになる。	近現代社会において、スポーツがいつ頃からいかに受容されたのか、その過程でどのような軋轢や抵抗、また進歩や発展が示されたのか、従来からある価値意識とどのように融合してスポーツが展開してきたかを理解し、それを踏まえて、将来のスポーツのあり方を自分で考えられるようになる。	スポーツ、遊び、祝祭。歴史、日本近代史、日本現代史、社会史、近代化、社会変動、社会構造、文化、規範、価値意識。				○	◎	
スポーツ心理学 I	M-HES112	100	講義	2		学校教育における体育・運動、競技スポーツやレクリエーションとしてのスポーツ、健康・医療領域での運動やスポーツ、および日常生活での運動行動などについて心理学的観点から学修する。	スポーツの心理面への影響、運動学習のメカニズム、運動による健康の増進、競技者の心理などの理解を通して、心理学的観点からスポーツをより深く理解できるようになる。	運動と知覚、運動の学習と指導、スポーツと動機づけ、スポーツの社会心理、運動行動の変容、競技心理、メンタルトレーニング、スポーツ臨床		◎		◎	○	○	

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバー	ナンバリング	科目 種別	単 位	主 要 科 目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー						
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
							授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	社会福祉学と心理学の双方の学びを通して、共生社会のための様々な現場、心理学を活用できる様々な現場で活躍するために幅広い教養を身に付けている。	私たちが生活する社会の在り方(知識、技術、制度)を把握・理解しているとともに、心理学を通じて心のしくみを理解し、その双方の知識と技術を生かして、他者や社会のための専門的な実践ができる。	共生社会の在り方や社会制度の知識を十分に理解して、福祉の在り方を考えることができる。データの収集と分析において心理学の方法論を十分取り入れ、心や社会の仕組みを理解して問題解決を図ることができる。	福祉に関する共生社会の在り方や社会制度、支援技術を理解して、さらに心理学の知識や技術、実践的なスキルを生かし、社会を俯瞰的に見ることができ、他者と協働してコミュニケーションをとることができる。	福祉制度の理念と知識、そして支援技術を十分に理解・把握している。そして心理学の専門的な知識と技術を身に付けて、社会に貢献する態度を有している。	社会人としての責任感・倫理観を遵守しつつ、福祉と心理学の知識や技術を新たに社会の支援のために活用するために活用することができる。	
	パラスポーツ論	M-HES358	300	講義	2		本講義では、多様な障がいを持つ人々によって行われているパラスポーツの実態について学ぶ。また、障がいのスポーツ活動に伴う様々な問題をスポーツの特性と社会的な視点を絡めて考察する。さらに複数のパラスポーツを実際に体験することを通じて理解を深め、障がいを持つ人のスポーツ活動を指導、支援する資質を習得することを目的とする。 ※担当教員は身体障害者のリハビリテーションセンターと精神科病院の双方で、運動療法やレクリエーション指導の経験を持つ。その実務経験で得た知見をもとに障がいを持つ人の多様性や実態を紹介することで学生諸君の理解を深めたい。	・多様な障がいの種類と、スポーツ活動実践に伴う課題を理解する。 ・パラスポーツに関わる問題を社会的な視点から説明できる。 ・障がいの特性に応じて考案されたスポーツのルールと、その基本的な考え方を説明できる。 ・パラスポーツの実践を通じて、障がいを持つ人と共にスポーツを行う資質を養う。	障がい者スポーツ ノーマライゼーション、多様性 パラスポーツ実習							
	人間社会学部特殊講義 A	M-OAR314	300	講義	2		学部の判断で様々な内容に関する講義主題を選び、多様で幅広い観点から学ぶ(15回相当の授業)。	講義主題について学んだことを理解し、要点をまとめ、発信できる。	主題別		◎	○	○	○	○	
	人間社会学部特殊講義 B	M-OAR315	300	講義	4		学部の判断で様々な内容に関する講義主題を選び、多様で幅広い観点から学ぶ(30回相当の授業)。	講義主題について学んだことを理解し、要点をまとめ、発信できる。	主題別		◎	○	○	○	○	
	地域福祉の理論と方法	M-SWS223	200	講義	4		地域に存在する多様な福祉課題を理解し、「地域共生社会」の実現の意義を踏まえ、その推進に向けた地域福祉に関する理論や推進主体、推進方法などを学修する。	福祉課題に直面する人々(高齢者や障害者、生活困窮者など)が生活していることのできる地域や社会の創造に向けた地域福祉の理念・理論・実践方法を理解できる。	多様化・複雑化する地域生活課題、地域福祉の基本的な考え方、地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制、福祉教育、ボランティア			○	◎	◎	○	
	低所得者に対する支援と生活保護制度	M-SWS224	200	講義	4	○	生活保護制度に関し、その理念と制度の内容、実施機関である福祉事務所の現状と課題等への理解を深める。	国民的最低限(ナショナル・ミニマム)を制度的に理解し歴史をふまえた上で現在の生活保護法を理解する。また、貧困を多様な側面から考察できる。	貧困、救済制度、ナショナル・ミニマム、生活保護法、公的扶助、現代の貧困			○			○	○
	高齢者福祉	M-SWS225	200	講義	4	○	介護保険制度について知る。	介護保険制度の成立過程と概況、現状と課題について理解し、実践に活用できる。	高齢者、介護保険法、認知症ケア、介護サービス、終末期ケア			○		◎	◎	◎

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバー	ナンバリング	科目 種別	単 位	主 要 科 目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
							授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	社会福祉学と心理学の双方の学びを通して、共生社会のための様々な現場、心理学を活用できる様々な現場で活躍するために幅広い教養を身に付けている。	私たちが生活する社会の在り方(知識、技術、制度)を把握・理解しているとともに、心理学を通じて心のしくみを理解し、その双方の知識と技術を生かして、他者や社会のための専門的な実践ができる。	共生社会の制度の知識を十分に理解して、福祉の在り方を考えることができる。データの収集と分析において心理学の方法論を十分取り入れ、心や社会を理解して問題解決を図ることができる。	福祉に関する共生社会の在り方や社会制度、支援技術を理解して、さらに心理学の知識・実践的なスキルを生かし、社会を俯瞰的に見ることで、他者と協働してコミュニケーションをとることができる。	福祉制度の理念と知識、そして支援技術を十分に理解・把握している。そして心理学の専門的な知識と技術を身に付けて、社会に貢献する態度を有している。	社会人としての責任感・倫理観を遵守しつつ、福祉と心理学の知識や技術を新たに社会の支援のために活用するチャレンジができる。
障害者福祉論	M-SWS205	200	講義	4	○	国連の障害者の権利条約、国際生活機能分類(ICF)を通じて、障害者福祉に対する基本的な姿勢、概念枠組みを理解した上で日本の障害者福祉の現状と課題を検討する。	福祉専門職にとって必要な、障害者福祉に関する諸理念や法制度を理解し具体的に活用するための力を養う。	1障害者の権利条約 2障害者総合支援法 3身体障害者福祉法 4知的障害者福祉法 5精神保健福祉法 6発達障害者支援法 7障害者虐待防止法		○		○	◎	◎	
ソーシャルワーク論	M-SWS226	200	講義	4		相談援助の理論と方法について学修する。	ソーシャルワークの理論を知り、その理論に基づく支援方法を理解し、実践に活用できる。	相談援助、人と環境との相互作用、援助関係、アウトリーチ、アセスメント、モニタリング		○		○		○	
社会保障論	M-SWS304	300	講義	4	○	ソーシャルワークに必要な社会保障制度における社会資源について学ぶ。	社会福祉士・精神保健福祉士業務に不可欠なレベルで当該科目を理解できる。	社会保障、社会保険、公的保険、民間保険、年金、健康、介護保険		○		○	◎	◎	
社会貢献と地域活動	M-SWS318	300	講義	4	○	地域社会には、多様かつ複雑な社会課題が発生している。社会課題が発生する背景・要因を構造的に理解し、その予防と解決に向けた方策を、社会貢献の視点から学修する。	多様な社会課題の存在と、その発生の要因や背景を構造的に理解し、併せて社会貢献活動を具体的に理解し、社会課題の予防や解消に向けた具体的な方策を考えることができる。	社会課題、福祉課題、社会貢献、社会貢献活動、NPO、ファンドレイジング、クラウドファンディング		○	◎	◎	○		
家族福祉論	M-SWS319	300	講義	4	○	現代家族の特質や様々な家族問題について学び、家族支援の方法について理解することを目的とする。	家族福祉に係る法律・制度、施策や社会資源、さらに家族支援の方法について理解できる。	現代家族、家族問題、家族支援、ファミリーソーシャルワーク		○			○	○	
労働者のメンタルヘルスと法	M-SWS320	300	講義	4	○	我が国では、労働者のメンタルヘルスが課題となっている。本講義では、労働者の働き方の現状、労働者を守るための法律、他の先進国との比較、ストレス関連疾患と知識とその予防・対策を説明することを通じて、我が国が目指すべき方向性及び施策について学ぶ。	我が国や先進国の労働状況について知る。また労働法や産業安全衛生法等の労働に関する法や 規定について知る。さらに心身ストレス関連の疾患及び、その予防・対策について学ぶ。	過労死、過重労働、ストレス性疾患ストレスマネジメント、労働基準法労働安全衛生法、				○	◎	◎	
臨床心理学概論	M-PSY101	100	講義	4	○	人の「こころ」についての基本的学問である臨床心理学の諸領域について学修する。	人の「こころ」の構造、人の成長過程を理解し、人間関係がどのように形成、維持されるかを理解できる。	こころ、成長過程、心理的援助法、心理査定		◎		◎	○	○	

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナンバリング	科目 種別	単 位	主 要 科 目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
							授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	社会福祉学と心理学の双方の学びを通して、共生社会のための様々な現場、心理学を活用できる様々な現場で活躍するために幅広い教養を身に付けている。	私たちが生活する社会の在り方(知識、技術、制度)を把握・理解しているとともに、心理学を通じて心のしくみを理解し、その双方の知識と技術を生かして、他者や社会のための専門的な実践ができる。	共生社会の在り方や社会制度の知識を理解して、福祉の在り方を考えることができる。データの収集と分析において心理学の方法論を十分取り入れ、心や社会を理解して問題解決を図ることができる。	福祉に関する共生社会の在り方や社会制度、支援技術を理解して、さらに心理学の知識や実践的なスキルを生かし、社会を俯瞰的に見ることができ、他者と協働してコミュニケーションをとることができる。	福祉制度の理念と知識、そして支援技術を十分に理解・把握している。そして心理学の専門的な知識と技術を身に付けて、社会に貢献する態度を有している。	社会人としての責任感・倫理観を遵守しつつ、福祉と心理学の知識や技術を新たに社会の支援のために活用するために活用する態度を有している。
公認心理師の職責	M-PSY210	200	講義	2	○	公認心理師法のもとで、公認心理師を含む心理専門職の仕事の内容、法的義務や職業倫理などを学ぶ。	公認心理師と、他の心理職と何が異なるのか、その職域、職務、資格などについて理解・説明できる。	欧米・日本の心理師の歴史、公認心理師法、法的責務、倫理		○		○	◎	◎	
心理学研究法	M-PSY203	200	講義	4	○	心理学で工夫されてきた「こころ」研究の代表的な方法である実験法、調査法などを学ぶ。	心理学の研究方法を理解し、「こころ」に関する疑問を解決する方法がイメージできるようになる。	心、実験法、調査法、観察法、検査法、面接法			○	◎	○	○	
心理学統計法	M-PSY211	200	講義	4	○	心理学が基本的に用いる統計手法(記述統計学および推測統計学)を学ぶ。	データの読み方および種々の統計手法を理解できるようになり、得られた差が統計的に意味のある差なのかどうかを判断することができる。	代表値、有意差、相関係数、t検定、カイ2乗検定、分散分析、因子分析			◎	◎	○	○	
感情・人格心理学	M-PSY212	200	講義	2	○	パーソナリティ理解の基礎となる認知と感情と行動の関係、人格の概念、人格の発達や変化、人格の様々な理論を学ぶ。	感情と感情喚起、行動に及ぼす影響、パーソナリティ概念と形成過程、類型、特性について理解する。	パーソナリティ、類型と特性、感情、感情喚起			◎		○		
心理学的支援法	M-PSY214	200	講義	4	○	相談業務全般という考え方から、心理治療の技法を含む専門的な考え方で学ぶ。	人の話をしっかり聞いて、できれば、相手が変化するような働きかけができる。	カウンセリングの諸技法、インタビュー、ケースフォーミュレーション、解釈、終結			◎	○	◎	○	
精神保健学	M-SWS208	200	講義	4	○	過剰なストレスが社会問題となっている現代社会において、精神面の健康の維持増進は重要である。精神面の健康についての基本的考え方と現状、さまざまな施策を学修する。	精神保健の概念、ライフサイクルと精神保健、現代の精神保健分野の動向と基本的な考え方、社会課題と精神保健面からのアプローチを理解できる。	精神保健、学校教育と精神保健、家庭と精神保健、職場と精神保健、精神保健に関する課題の発生予防と対策			◎	◎	○	○	
健康・医療心理学	M-PSY215	200	講義	2	○	健康や医療にかかわる心理学に関して重要なトピックスを幅広く、実例とともに理解する。	健康、医療における心理学、地域保健、災害時における心理支援活動、多職種による協働・連携について理解できる。	健康心理学、医療、地域保健、災害心理支援、多職種協働・連携			○		◎	○	

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバー	ナンバリング	科目 種別	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー						
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
福祉心理学 専攻科目	学習・言語心理学	M-PSY216	200	講義	2	○	授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	社会福祉学と心理学の双方の学びを通して、共生社会のための様々な現場、心理学を活用できる様々な現場で活躍するために幅広い教養を身に付けている。	私たちが生活する社会の在り方(知識、技術、制度)を理解しているとともに、心理学を通じて心のしくみを理解し、その双方の知識と技術を生かして、他者や社会のための専門的な実践ができる。	共生社会の在り方や社会制度の知識を十分に理解して、福祉の在り方を考えることができる。データの収集と分析において心理学の方法論を十分取り入れ、心や社会の仕組みを理解して問題解決を図ることができる。	福祉に関する共生社会の在り方や社会制度、支援技術を理解して、さらに心理学の知識や技術、実践的なスキルを生かし、社会を俯瞰的に見ることができ、他者と協働してコミュニケーションをとることができる。	福祉制度の理念と知識、そして支援技術を十分に理解・把握している。そして心理学の専門的な知識と技術を身に付けて、社会に貢献する態度を有している。	社会人としての責任感・倫理観を遵守しつつ、福祉と心理学の知識や技術を新たに社会の支援のために活用するチャレンジができる。	
	社会・集団・家族心理学	M-PSY217	200	講義	2	○	対人関係および集団が個人の意識と態度、行動に及ぼす影響、そして社会や文化、家族の社会心理学を学ぶ。	社会・集団・家族、対人関係や集団における人の意識と行動、態度および行動について、さまざまな理論を理解する。	対人認知、対人コミュニケーション、文化と個人、家族		◎		◎	○		○
	心理的アセスメント	M-PSY218	200	実習	4	○	心理検査の基礎理論と各種の心理検査の成り立ちを知り、適切な利用法について体験を通して学習する。	心理検査の基礎理論を理解し、各種の知能検査とパーソナリティ検査について、その成り立ちと適切な利用法について理解できる。	心理検査、臨床心理学、心理アセスメント、心理的援助、知能検査、質問紙法、投影法			○	◎	◎	○	
	教育・学校心理学	M-PSY219	200	講義	4	○	子供にかかわる基本的な臨床的問題を、乳幼児から学校臨床まで毎回ひとつずつ考えていく。	臨床場面で子どもと出会ったとき、その子どもの発達や心理状態に合わせて、接することができる。	愛着、不安、恐怖症、発達障害、不登校、いじめ、適応障害、学校臨床	○	◎				○	
	司法・犯罪心理学	M-PSY223	200	講義	2	○	犯罪・非行、犯罪被害、家事事件などの基本的知識、司法・犯罪分野における心理学的問題の知識を学ぶ。	犯罪・非行、犯罪被害などの基本的知識、そして司法・犯罪分野における心理学的な問題を理解できる。	殺人の心理学的な理解、犯罪の心理学、犯罪被害者加害者支援、司法の心理学的問題	○	◎				◎	○
	産業・組織心理学	M-PSY222	200	講義	2	○	職業場における人間の心理行動を産業・組織心理学の諸理論から学修する。	職業場における人間の心理行動を産業・組織心理学の諸理論から理解を深めることができる。	思考力、知識の理解、専門知識、基礎的学修、当該領域への関心、批判的思考力、自律性	○	○		◎	◎		
	人体の構造と機能及び疾病	M-SFD204	200	講義	4	○	医療や福祉の場において必要とされる医学の基礎知識を学ぶ。	臨床医学の各分野・体の構造と機能、現代社会における代表的な疾病、リハビリテーションなどの概略を理解できる。	心身の成長と発達、老化、生活習慣病など疾病の種類、発達障害などの障害の概要、リハビリテーション他	○			○	◎		○

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバー	ナンバリング	科目 種別	単 位	主 要 科 目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
							授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	社会福祉学と心理学の双方の学びを通して、共生社会のための様々な現場、心理学を活用できる様々な現場で活躍するために幅広い教養を身に付けている。	私たちが生活する社会の在り方(知識、技術、制度)を把握・理解しているとともに、心理学を通じて心のしくみを理解し、その双方の知識と技術を生かして、他者や社会のための専門的な実践ができる。	共生社会の在り方や社会制度の知識を十分に理解して、福祉の在り方を考えることができる。データの収集と分析において心理学の方法論を十分取り入れ、心や社会を理解して問題解決を図ることができる。	福祉に関する共生社会の在り方や社会制度、支援技術を理解して、さらに心理学の知識や技術、実践的なスキルを生かし、社会を俯瞰的に見ることができ、他者と協働してコミュニケーションをとることができる。	福祉制度の理念と知識、そして支援技術を十分に理解・把握している。そして心理学の知識や技術を新たに社会の支援と技術を身に付けて、社会に貢献する態度を有している。	社会人としての責任感・倫理観を遵守しつつ、福祉と心理学の知識や技術を新たに社会の支援のために活用するチャレンジができる。
関係行政論	M-PSY220	200	講義	2	○	公認心理師としての業務を行うに当たり、関係法や行政組織・機関に対する必要な知識を学ぶ。	公認心理師は他職種や他機関との連携を、様々な分野の概要を知ることでスムーズな連携が行えるようにする。	公認心理師法、保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働等の法律				○	○	◎	
精神分析学	M-PSY221	200	講義	4		精神分析学における基礎的な理論とその特徴、精神分析的な精神発達論、精神病理学を学ぶ。	精神分析学、精神分析的な精神発達論、精神病理学の内容を自分の言葉で表現できる。	無意識、自我の働き、心の発達、アイデンティティ、自己愛、対象喪失、心の病			◎	○	◎	○	
神経・生理心理学	M-PSY311	300	講義	2	○	脳・神経系の構造から知覚や記憶、ストレス、睡眠やリズム、摂食行動や痛みなどの基盤、そして脳機能障害のうち高次脳機能障害を学ぶ。	脳・神経系の構造と機能、知覚や記憶、ストレス、睡眠やリズム、痛みのしくみ、高次脳機能障害を理解する。	脳・神経系の構造と機能、知覚や記憶、ストレス、睡眠やリズム、痛み、高次脳機能障害			◎	◎	○		○
知覚・認知心理学	M-PSY313	300	講義	4	○	実験心理学の基本的な考え方を学び、感覚・知覚、学習、認知等の領域における成果を概観する。	実験心理学の目的、方法や知見を理解し、「こころ」に関する疑問を解決する方法がイメージできる。	心、実験、感覚・知覚、学習、認知			◎	○		○	○
福祉心理学	M-PSY310	300	講義	4	○	福祉領域における心理学的問題や問題解決に必要な心理学的知見を学ぶ。	日常生活の問題を心理学の立場で考え、障害・高齢支援の基礎を身につけて実際の支援に役立てることができる。	福祉、障害支援、高齢支援、ICF、QOL、バリアフリー、ユニバーサルデザイン			○	○	◎	◎	
障害者・障害児心理学	M-PSY315	300	講義	4	○	障害者(児)の心理的特性に関する基礎的な知見と生活機能を高める支援や援助の方法を学ぶ。	ICFと様々な障害の心理的特性を理解し、適切な支援ができる。	心理特性、障害、ICF、支援、身体障害、発達障害			○		◎	◎	
心理療法	M-PSY308	300	講義	4	○	心理療法の場において、人間の心がどのように変容していくかを、学修する。	心理療法における変化のプロセスを、箱庭、遊び、描画、夢、語りなどを通じて、具体的に理解できる。	イメージ表現、トラウマ、箱庭、セラピスト・クライアント関係、心の物語、親子関係			◎	○	○	◎	

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバー	ナンバリング	科目 種別	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
							授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	社会福祉学と心理学の双方の学びを通して、共生社会のための様々な現場、心理学を活用できる様々な現場で活躍するために幅広い教養を身に付けている。	私たちが生活する社会の在り方(知識、技術、制度)を把握・理解しているとともに、心理学を通じて心のしくみを理解し、その双方の知識と技術を生かして、他者や社会のための専門的な実践ができる。	共生社会の在り方や社会制度の知識を十分に理解して、福祉の在り方を考えることができる。データの収集と分析において心理学の方法論を十分取り入れ、心や社会の仕組みを理解して問題解決を図ることができる。	福祉に関する共生社会の在り方や社会制度、支援技術を理解して、さらに心理学の知識や技術、実践的なスキルを生かし、社会を俯瞰的に見ることができ、他者と協働してコミュニケーションをとることができる。	福祉制度の理念と知識、そして支援技術を十分に理解・把握している。そして心理学の専門的な知識と技術を身に付けて、社会に貢献する態度を有している。	社会人としての責任感・倫理観を遵守しつつ、福祉と心理学の知識や技術を新たに社会の支援のために活用するチャレンジができる。
	精神疾患とその治療	M-PSY316	300	講義	4	○	代表的な精神疾患について本人や家族の支援の視点から学修する。	精神疾患総論や治療、人権擁護、精神科医療機関における治療構造を理解できる。	精神疾患、神経症、統合失調症、気分障害、ストレス関連障害、依存症、薬物療法とリハビリテーション	○	◎			◎	
	心理学実験	M-PSY317	300	実習	4	○	知覚・認知・対人関係など基礎的な課題を行い、実験を理解し、レポートの書き方を身につける。	心理学実験に関する基礎的な知見を身につけ、実験レポートを作成することができる。	心理学、実験、研究法、心理統計、実験レポート		○	◎	○		○
	心理演習	M-PSY318	300	演習	2		公認心理師の仕事とその実際、その役割を学習する。	公認心理師としての能力や知識を、実習により習得し実践に活用できるようになる。	公認心理師の倫理、技能、支援、多職種連携		○		○	◎	◎
	心理実習	M-PSY402	400	実習	2		学外実習を体験して、その体験を記録・報告、ディスカッションをすることで、心理業務の実際を学ぶ。	学外実習を医療領域、福祉領域、教育領域で体験して、それを理解する。	学外実習、医療領域、福祉領域、教育領域		○		○	◎	◎